

北を向く越後人関連年表

年号	出来事
享保5（1720）年	新井白石が日本で初めて蝦夷国の地誌をまとめた『蝦夷國志』を著す。
天明5（1785）年	林子平が『蝦夷國全図』を作成する。『三国通覧図説』の中に付図として掲載される。
天明6（1786）年	溝口直侯が15歳で第9代新発田藩主となる。
寛政3（1791）年	林子平が異国船対策を述べた『海国兵談』を刊行するものの、幕府批判の内容を含むため版木が没収される。
寛政4（1792）年9月	ロシア使節の ラクスマン が日本人の漂流民大黒屋光太夫を伴って 根室に來航 、日本に対し通商を求める。幕府は異国との交渉は長崎でのみ行う方針を伝え、通商を拒否。翌年長崎への入港許可証を交付。この時、大黒屋光太夫が帰国する（『吹上秘抄』）。
寛政8（1796）年6月	この頃までに溝口直侯は新井白石『蝦夷國志』・林子平『三国通覧』を読了する。（『諸書籍讀見済留記』）
寛政13年～享和元年	直侯は『蝦夷國志』を再読する。（『諸書籍讀見済留記』）
享和2（1802）年	第9代藩主溝口直侯が25歳で逝去。溝口直諒が第10代藩主となる。
文化元（1804）年	ロシア使節のレザノフが寛政4年にラクスマンが受理した入港許可証を携えて長崎へ來航。幕府は再びロシアとの通商を拒否する。
文化3（1806）年	レザノフの部下がカラフト・エトロフ島の松前藩会所・番屋を襲撃する。松前藩支援のために東北の津軽・南部藩兵が派遣される。
文化5（1808）年	幕府の命により、新発田藩は松ヶ崎・新潟沖ノ口・藤塚浜・佐渡に物見所を設けロシア船の警戒に当たる。
文政9（1826）年	新発田藩士村松喜右衛門の次男和が、医学を志し江戸へ上る。
嘉永2（1849）年	村松和は江戸の小児科医桑田家玄真の養子となり、桑田立斎を名乗る。西洋医学の牛痘の方法を習得して、『牛痘発蒙』などを著作。
安政2（1855）年	箱館が開港 。松前藩領から幕府直轄地に上知される。三日市藩の松川弁之助が蝦夷地御用取扱として北海道で植林、道路・五稜郭の建設に携わる。
安政4（1857）年	幕府の命により、桑田立斎は北海道で流行していた疱瘡（天然痘）予防のため、アイヌの人々に種痘を施す。
慶応3（1867）年	大倉喜八郎江戸に大倉銃砲店を開く。 大政奉還
慶応4（1868）年	戊辰戦争開戦 ・大倉の銃砲店は大繁盛する。
明治6（1873）年	旧新発田藩士らが資金を集め、蝦夷地の漁場開拓を始めるが、採算が合わず、明治10（1877）年には撤退。
明治19（1886）年	札幌の官営ビール醸造所が大倉組に払い下げられる。
明治21（1888）年	札幌麦酒株式会社（現サッポロビール）創立。
明治22（1889）年	宮崎大四郎（郁雨）が函館へ移住。
明治30（1897）年	渋沢栄一・大倉喜八郎が十勝開墾会社を設立。
明治39（1906）年	宮崎郁雨が文芸結社「苜蓿社」に参加。ここで岩手から移ってきた石川啄木と出会い交流を深める。
明治43（1901）年	郁雨の支援のもと啄木が『一握の砂』を出版。